

山梨県水産技術センター便り

新任のご挨拶

所長 竹丘 守

本年4月に高橋前所長の後を受けて水産技術センターの所長を拝命いたしました竹丘です。

これまでは、総合農業技術センターや農務事務所など農業関係の職場におり、水産関係に従事するのは、全くの初めてで、大変戸惑っております。微力ながら一生懸命に努める所存ですので、よろしくお願いいたします。

さて、水産技術センターでは、増養殖に係る試験研究を始めとして、アユやマス類の種卵・種苗の生産や、河川や湖沼環境を含めた各種技術の普及指導など、総合的な観点から本県水産業の維持、発展に向け、取り組みを行っています。

こうした中、明るい話題として、今年の3月に、人工授精で誕生したクニマスから人工2世代目が誕生し、クニマスの完全養殖にめどを立てることが出来ました。この冬には本格的に成熟期をむかえ、来年の春は、沢山のクニマスの稚魚が水槽の中を元気に泳ぐ姿が、見られそうです。とかく暗い話が多い中ですが、明るい話題や皆さんに喜ばれる技術を出せるだけ多く発信していきたいと思えます。

水産業を取り巻く状況は、飼料原料の高騰や消費の低迷、アユの不漁など、大変厳しいものがあり、解決すべき課題も多々あります。こうした課題に積極的に取り組み、より身近な存在として皆様から期待され、支持される水産技術センターで有るよう、職員一同一丸となって、今後も最善の努力を続けて参る所存です。なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます、新任の挨拶といたします。

第39回全国養鱒技術協議会が 本県で開催されました

主任研究員 岡崎 巧

平成26年7月15日から16日の2日間にわたり、第39回全国養鱒技術協議会が甲府市の県立図書館にて開催されました。全国養鱒技術協議会は、昭和51年に発足し、その前身である全国湖沼河川養殖研究会養鱒部会の31年の活動とあわせ70年の歴史ある会です。また、本協議会の活動を通じて得られた研究成果等は、現在のマス類養殖技術の礎ともなっています。現在、本協議会には全国の養鱒関係研究機関19都県が

加盟しているほか、指導機関として(独)水産総合研究センター、協力機関として全国養鱒振興協会、養魚飼料油脂協会、(社)日本動物用医薬品協会、(社)日本養魚飼料協会が参加し、水産関係で産官の関係者が一堂に会する数少ない会議となっています。今回の会議では約90名の参加の下、「最先端の保存技術と衛生管理」を中心課題とし、2課題の講演と研究発表が行われ、活発な議論が交わされましたので、その概要についてご紹介いたします。なお、会議資料の残部が若干ございますので、ご希望の方は水産技術センター忍野支所までお申し出ください。

会議 1 日目は、冒頭、本協議会運営委員長である静岡県水産技術研究所富士養鱒場の平井一行場長、本県の山里直志農政部長がそれぞれ主催者、開催県として挨拶の後、山梨県漁業協同組合連合会の清水武則会長、全国養鱒振興協会の小堀彰彦会長より来賓としてのご挨拶を頂きました。

次に（独）水産大学校の前田俊道教授に「高品質な鮮魚生産のための魚体処理方法」と題し、養殖魚の鮮度を保持するために必要な取り揚げの方法、締め方、出荷の際の冷却方法などを中心としたご講演を頂きました。まず、出荷魚の取り揚げの際には、魚をなるべく暴れさせないことが重要であり、そのためには、電気刺激やスラリー氷の使用が有効とのことでした。魚の締め方については、海産魚のブリ等で用いられる延髄刺殺（えら蓋付近の背骨を切断）や、鮮度保持の点でさらに優れている、脊髄破壊（いわゆる神経抜き、神経締め）について紹介して頂いたほか、脱血（血抜き）の有効性や冷却方法についても紹介して頂きました。また、これらの処理により付加価値を上げ、ブランド化を図っている事例についても紹介して頂きました。

続いて、全国的な魚病の発生動向や低魚粉飼料に係る連絡試験結果や全国養鱒振興協会の活動などについての報告があり 1 日目の会議を終了しました。

会議 2 日目は、2 課題目の講演として、山梨県中北保健福祉事務所衛生課の浅川洋美課長に「魚の加工販売における衛生管理と必要な手続き」と題し、ご講演を頂きました。講演では、魚の加工販売に必要な許認可やその許可基準、手続きの流れなど具体的な説明をして頂きました。

続いて、会員県からの研究発表として、宮城県から「全雌 3 倍体イワナ「伊達イワナ」のブランド化に向けた取り組み」、栃木県から「マス類における免疫賦活剤の有効利用について」、山梨県から「クニマスの飼育特性」、長野県から「ニジマス卵生産に対する温暖化の影響」、静岡県から「養鱒場の水温変動の特徴と降水の影響」について報告がありました。

その後、講演や研究発表に関しての総合討論が行われ、活発な意見交換がなされ 2 日間の会議の日程が終了しました。



協議会の様子

今年も一斉追い払いが実施されました

研究員 谷沢弘将

カワウ一斉追い払いは今年で **9** 回目を迎えました。5 月 8 日から同 1 7 日の 10 日間、**11** 漁協、10 日間延べ **1000** 人近くの方が参加して行われました。かかしは **76** 体、防鳥テープ・テグス、その他の防鳥具設置箇所は **228** 箇所に及びました。その結果、**11 漁協管内全て**でカワウの飛来数が減少しました（図 1）。飛来数は計 **335** 羽から **114** 羽と約 **3 分の 1** まで減少し、一斉追い払いの高い効果が実証されました。

今年新たにねぐら・コロニーは生まれませんでした。現在は下曾根コロニー 1 箇所に封じ込め繁殖抑制（擬卵置き換え・ドライアイス）を行いカワウが増えすぎないように管理しています。今後も生息地を下曾根コロニー 1 箇所に封じ込めるため、各漁協の皆さんには定期的にパトロールを行っていただきたいと思います。新しいねぐらを除去するためには早期発見が重要です。夕方、**木にとまっているカワウを見つけたら、水産技術センターまでご連絡ください。**

今後も、カワウの餌場での追い払いや繁殖抑制などのコロニー管理を継続し、県内一丸となった食害対策を行っていきましょう。

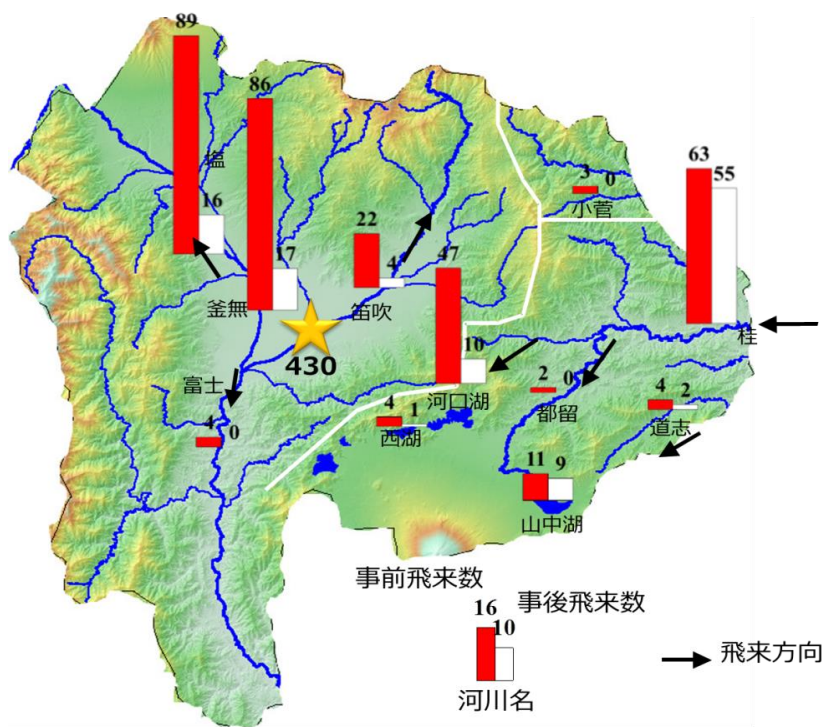
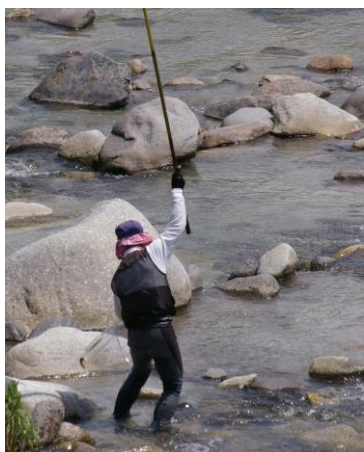


図1 追い払い前後での山梨県内各地の飛来数。→は主な飛来方向、星印は県内に1つあるねぐら兼繁殖コロニー（下曽根コロニー：富士川水系）。白線は分水嶺。河川名については「川」を省略。

文献紹介「河床に露出した巨石の割合とアユの漁獲不振の関係」

阿部信一郎ら（水産増殖第62巻1号、2014年）

近年全国的に、1つの河川の中でアユが極端に釣れなくなった場所が見られるようになり、その原因として局所的な河川環境の変化が指摘されています。この局所的なアユの漁獲不振と河川環境要因の関係に関する研究を紹介します。



9県の13河川36地点から漁獲不振区と対照区（漁獲良好区）を選定し、アユの生息密度、釣れ具合（1人1時間あたりの友釣り釣獲数）、環境要因の相関解析がなされた結果、不振区はアユの生息密度が低いために釣れないことが明らかにされました。

不振区に特徴的に見られる河川環境として、①河床勾配が緩やかで、②河床に露出する巨石（長径25cm以上の石）の割合が小さく、③河床の石が土砂で埋まった「はまり石」になった、でこぼこが少なく平滑化した川底であることが示されました。河床面積に占める露出した巨石の比率が27%を下回ると、不漁の危険性が增大すると考察されています。

でこぼこが少なく平滑化した河床は、付着藻類の繁茂する表面積が小さく、緩やかな流れや隠れ場所が少なくなるため、アユが定着しにくいと考えられています。

河床の平滑化による不漁漁場の改善策として、巨石の投入や、埋まった石を掘り起こす河床耕耘が提案されています。

新人自己紹介



小澤 諒 28才 (神奈川県出身)

福井県立大学生物資源学部卒

京都大学大学院農学研究科修士課程修了

今年度より新採用として水産技術センターに配属されました小澤諒と申します。私は小さい頃から生き物が好きで、色々な動物を飼育してきました。もちろん今もたくさんの動物に囲まれて暮らしています。山梨県は自然が豊かなので、これからどんな動物に出会えるか楽しみです。また、大学ではトラフグ、大学院ではクサフグとコモンフグを使って飼育実験や生態の研究を行ってきました。これらの経験を活かし早く一人前になり、県民の皆様から信頼される存在になりたいです。山梨県の水産業の発展のため粉骨砕身しますのでよろしくお願いいたします。

平成26年度の組織体制

平成26年4月1日付けの人事異動で、今年度の体制は次のとおりとなりました。

本 所 (12名)

所 長 竹丘 守 (転任)
次 長 雨宮 光彦 (転任)
研究管理幹 大浜 秀規 : 総括
主 幹 田中 昭彦 : 総務
主任研究員 青柳 敏裕 : 増殖
研 究 員 加地 弘一 : 養殖
研 究 員 谷沢 弘将 : 増殖
技 師 小澤 諒 (採用) : 養殖
主任技能員 大森 洋治

臨時職員 岩部 奈津美

臨時職員 吉野 健司

臨時職員 小林 伝

忍野支所 (9名)

支 所 長 大浜 秀規 (兼務)

主任研究員 岡崎 巧 : 養殖

研 究 員 三浦 正之 : 養殖

研 究 員 加地 奈々 (育休)

主任技能員 羽田 幸司

非常勤職員 宮内 聡

臨時職員 天野 元枝

臨時職員 渡邊 由美子

臨時職員 大森 駿 (採用)

退 職 (平成26年3月31日付)

所 長 高橋 一孝

平成26年9月18日発行

本 所

〒400-0121 甲斐市牛匂497

TEL 055-277-4758 FAX 055-277-3049

E-mail : suisan-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

支 所

〒401-0511 南都留郡忍野村忍草3098-1

TEL 0555-84-2029 FAX 0555-84-3707

E-mail : suisan-osn@pref.yamanashi.lg.jp